

水稻に於ける草態の品種間差異について

田 村 貞 治

農林省宮崎農事改良実験所

緒 言

水稻の生育期間中比較的初期に於いて發現する莖葉の枯死下垂の現象は主として生育初期に於ける過剰生長に起因するもので、これが必然的に秋落を助長するものとされている。

宮崎で莖葉の枯死下垂する現象の最も顯著に見受けられる時期の一つは幼穂形成期直後の8月中旬頃と、今一つは成熟期の頃とである。

筆者は過去々々本年前者の時期に於ける莖葉の枯死下垂する状態(假にこれを總稱して草態と云ふ言葉を借りて表現することにする)が品種によつて相異のある事を観察したので、これが秋落程度の品種間差異にも関連のあることを豫想し、本年は先ず豫備調査として草態と品種との関係について調査を試みた。勿論本年は豫備調査であつたので、各品種について同一生育相に於ける調査を行い難かつたからその結果は正確なものとは言い難いが以下調査の結果について報告する。

本試験施行に當り特に九州支場長を始め嵐、山川兩技官、宮崎農試金川技師の懇篤なる御指導と御援助を

賜つたことに對して深甚なる謝意を表する。

I. 調査材料及方法

(1). 調査材料は九州支場との連絡試験「秋落に關する品種間差異について」の調査材料27品種を用いた。

(2). 栽培法は普通栽培に準じた。即ち施肥量は標準量とし、播種量坪當3合(浸漬籾)、播種期5月25日、插秧期6月28日、坪當株數56.5株の3本植で、1區面積は1坪2區割とした。

(3). 調査項目中、草冠長は2株の平均をもつて示し、その他最高草丈、最高莖數及び遅穂數等は總て20株平均をもつて示した。

(4). 草冠長の測定は地上25糎(草丈の約4分の1)35糎(約3分の1)及び45糎(約2分の1)の所に於いて夫々行つた。

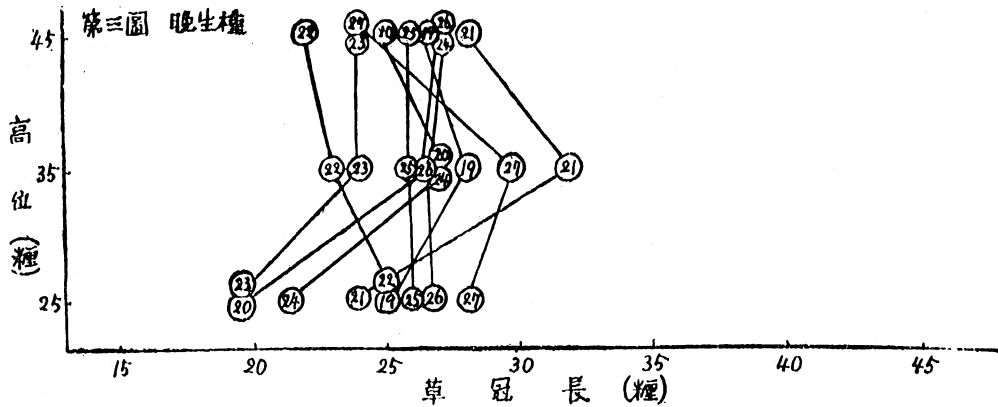
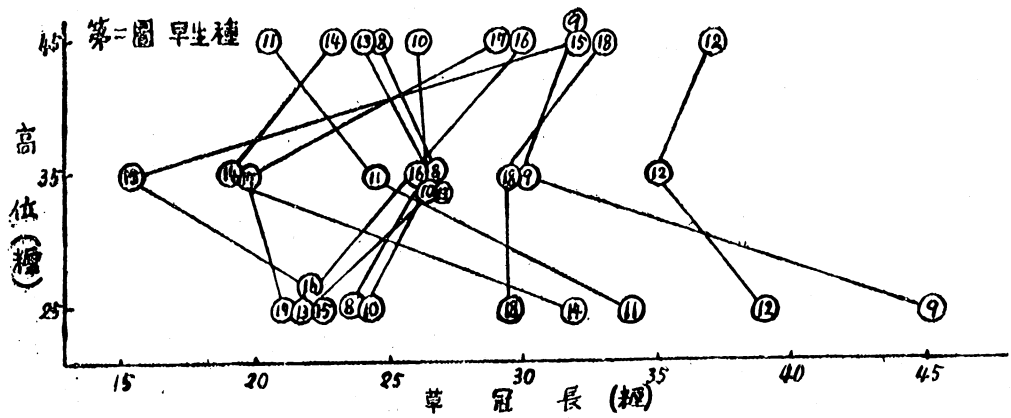
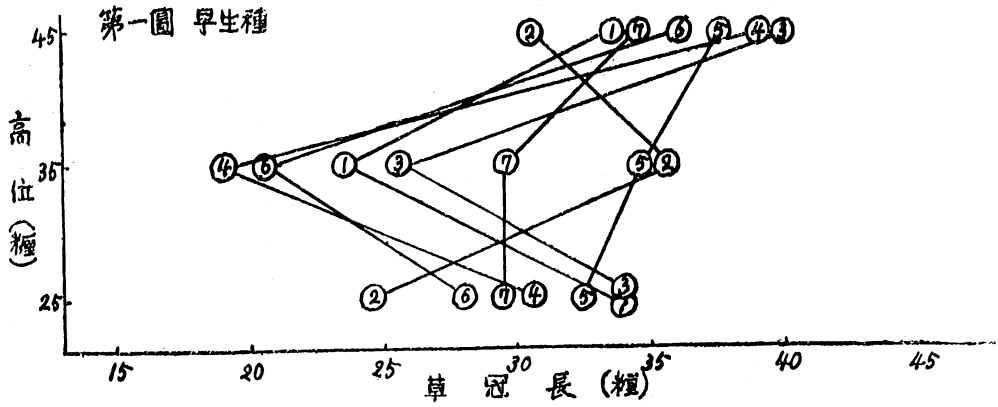
(5). 測定の時節は8月17日で、方法は宮崎農試金川技師の考案した墨汁吹付法によつた。

II. 試験成績

結果の概要は次の通りである。

試験 番號	品 種 名	出穂期 早 晩	出穂期 月 日	最高 草丈 糎	最高 莖數 本	遅穂數 本	草冠長(糎)			枯 垂 葉 數		葉 枯 難 易
							地上 25糎	地上 35糎	地上 45糎	地 上 35糎以下	地 上 35糎以上	
1	農 林 6 號	早	8.25	94.6	17	3.3	34.0	23.5	33.5	16	9	易
2	銀 坊 主 號	〃	25	96.0	15	6.0	24.5	35.5	30.5	16	9	中
3	農 林 8 號	〃	27	101.4	17	1.4	34.0	25.5	40.0	12	10	易
4	Charnak	〃	27	118.1	20	1.8	30.5	19.0	39.0	16	9	〃
5	山 中 2 號	〃	30	118.1	19	1.3	32.5	34.5	37.5	12	4	〃
6	千 本 旭	〃	31	97.6	16	1.6	28.0	20.5	36.0	14	4	〃
7	Aguyod	〃	31	135.6	16	2.4	29.5	29.5	34.5	24	8	〃
8	雄 旭 町	中	9. 1	109.0	16	1.3	23.5	26.5	24.5	9	4	難
9	旭 寶	〃	2	105.5	15	1.6	45.0	30.0	32.0	14	7	易
10	寶	〃	2	104.9	17	1.6	24.0	26.2	26.0	10	5	難
11	筑 農 林 5 號	〃	3	99.9	20	2.1	34.0	24.5	20.5	10	6	中
12	農 林 12 號	〃	3	100.3	16	2.5	39.0	35.0	37.0	20	12	易
13	農 林 12 號	〃	3	98.5	13	1.8	22.0	26.5	24.0	14	4	難
14	神 農 山 號	〃	3	106.5	16	2.2	32.0	19.0	23.0	13	1	〃
15	農 林 27 號	〃	4	107.7	16	1.4	22.5	15.2	32.0	14	4	中
16	三 錦 江 旭	〃	4	108.9	16	3.1	22.0	26.0	30.0	12	5	〃
17	高 農 35 號	〃	4	109.7	21	1.9	21.5	19.5	29.0	12	4	〃
18	三 井 神 力	〃	4	95.1	16	2.4	29.5	29.5	33.0	15	3	〃
19	高 三 井 神 力	晚	5	112.4	14	1.5	25.0	28.0	26.5	13	3	難
20	大 分 三 井 120 號	〃	5	109.0	25	2.2	19.5	27.0	25.0	17	4	〃

21	荔	枝	江	晚	9	5	108.2	19	2.7	24.0	32.0	28.0	10	7	難
22	農	林	號	"	"	6	108.7	18	1.8	25.0	23.0	22.0	10	3	最難
23	神	光	愛	"	"	6	97.5	19	2.1	19.5	24.0	24.0	14	1	難
24	鹿	力	號	"	"	7	108.6	19	2.0	21.5	27.0	27.0	12	7	"
25	神	海	號	"	"	9	107.1	18	1.9	26.0	26.0	26.0	4	1	"
26	西		豐	"	"	10	119.9	16	2.1	26.5	26.2	27.0	6	3	"
27	瑞			"	"	10	112.2	17	1.3	28.0	29.7	24.0	3	1	"



Ⅱ. 考 察

(1). 早生種に屬するものは概して下部(地上25糶の位置)に於ける莖葉の枯死下垂する傾向が強く、中部(35糶の位置)は之に反し、上部(45糶の位置)に於いて再び枯死下垂の傾向が一増強くなり、此の間の草態が所謂「つゞみ」型を呈する。

(2). 中生種に屬するものは大別して前者と類似の傾向を示すものと、各部に於ける枯死下垂の傾向が比較的少ないもの、即ち各莖葉共比較的直立して此の間の草態が紡錘型を示すものがある。

(3). 晩生種に屬するものは紡錘型のもので、各部共

枯死下垂の度が少く各莖葉共直立して此の間の草態が棒状を呈するものがある。

(4). 而して本調査は前述の如く各品種の同一生育相に於ける調査の結果によるものでないから多少の誤差のあることは免れ得ないところであるが大體に於いて各々早、中、晩生種間に於いても品種間の差があることが認められる。

(5). しかも枯死下垂の傾向が少ないものは暖地に於ける主要品種に屬するものが多い。

(6). 草態による品種間差異を以て直ちに秋落程度の難易を決定することは早計であるが、今後之が決定上の一つの指針となるのではなからうかと推定される。